

VEHICULAR SEAT

Publication number: JP11301323

Publication date: 1999-11-02

Inventor: TAKAHASHI TSUTOMU

Applicant: ARACO CORP

Classification:

- International: **B60N2/20; B60N2/34; B60N2/02; B60N2/32; (IPC1-7):**
B60N2/20; B60N2/34

- European:

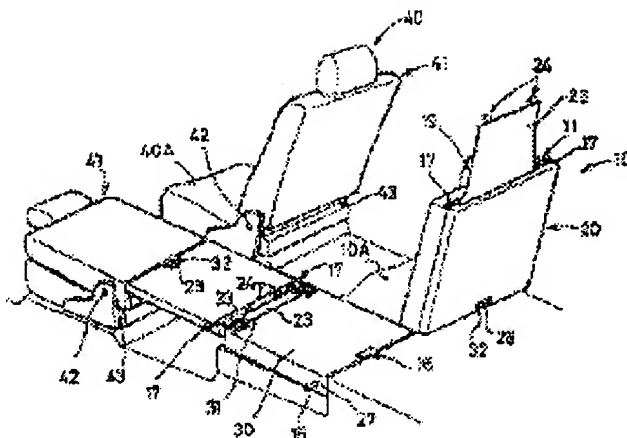
Application number: JP19980109652 19980420

Priority number(s): JP19980109652 19980420

[Report a data error here](#)

Abstract of JP11301323

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a vehicular seat capable of being made into the flatter state and capable of being easily operated. **SOLUTION:** Front and rear seat backs 11, 41 can be forward folded until they are made into the horizontal states, and a back board 20 is rotatably attached on the back surface of the rear seat back 11 through rotational hinges 17. When a vehicular seat is made into the flat state, the back board 20 is rotated 180 deg. in a state where both front and rear seat backs 11, 41 are forwardly folded, and the tip edge is locked on the edge of the front seat, back 41. Therefore, the back board 20 is laid between the front and rear seat backs 11, 41, and the vehicular seat is made into the flat state. In this state, since the seat surfaces of the seats are hidden and the flat back surfaces of the seat backs 11, 41 face upward, the completely flat state can be obtained.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-301323

(43) 公開日 平成11年(1999)11月2日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 0 N 2/20
2/34

識別記号

F I

B 6 0 N 2/20
2/34

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平10-109652

(22) 出願日

平成10年(1998)4月20日

(71) 出願人 000101639

アラコ株式会社

愛知県豊田市吉原町上藤池25番地

(72) 発明者 高橋 勉

愛知県豊田市吉原町上藤池25番地 アラコ
株式会社内

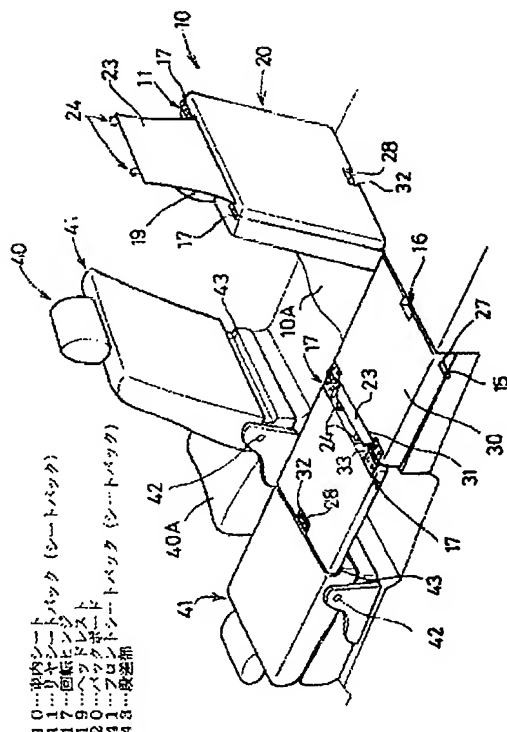
(74) 代理人 弁理士 後呂 和男 (外1名)

(54) 【発明の名称】 車内シート

(57) 【要約】

【課題】 より一層なフラット化が可能でかつその操作が容易な車内シートを提供する。

【解決手段】 前後のシートバック11、41は、水平となるまで前側に倒せるようになっており、リヤシートバック11の背面には、バックボード20が回転ヒンジ17を介して回転可能に取り付けられている。車内シートをフラット化するには、まず、前後の両シートバック11、41を前側に倒した状態で、バックボード20を180度反転させ、その先端縁部をフロントシートバック41の縁部に係止させる。すると、前後のシートバック11、41間にバックボード20が差し渡されて、車内シートがフラット化される。この状態となると、シートの座面が隠されてシートバック11、41の平坦な背面が上方を向くから、完全なフラット化が図られる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 自動車に備えた前後の両シートバックが、水平になるまで前側に倒れるように設けられかつそれらの背面が平面状に形成されると共に、一方のシートバックの背面には、平板状のバックボードが重ねられて他方のシートバック寄りの縁部に配したヒンジを介して回動可能に備えられており、

前後のシートバックを水平に倒した状態で前記バックボードを約180度反転させたときに、前記バックボードと前後のシートバックとが面一に連続するようにしたことを特徴とする車内シート。

【請求項2】 前記他方のシートバックの背面のうち前記バックボードを備えた一方のシートバック側の縁部に段差部を設け、この段差部に約180度反転させた前記バックボードの先端が係止するようにしたことを特徴とする請求項1記載の車内シート。

【請求項3】 約180度反転させた前記バックボードが、後側のシートバックに備えたヘッドレストの背面に当接して支持されるようにしたことを特徴とする請求項1又は請求項2記載の車内シート。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、フラット化可能な車内シートに関する。

【0002】

【従来の技術】フラット化を考慮した車内シートとして、図5に示すものが知られている。この車内シート1は、前側シート2と後側シート3とからなり、通常は図5(A)に示すように、両シート2、3のシートバック2A、3Aを起立させた状態にして後側のシートバック3Aの上端と車内の天井面4との間にパーティションネット5を差し渡した状態にしてある。そして、車内シート1をフラット化するに際しては、図5(B)に示すように、ヘッドレスト6を取外して前側のシートバック2Aを後方に倒すと共に、パーティションネット5を取り外して後側のシートバック3Aを後方に倒す。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、一般にシートの座面は座り心地を考慮して体型に合わせた凹凸形状をなしており、上記した従来の車内シートのようにシートの座面でフラット面を構成するものでは、完全なフラット化は望めない。また、上記したものでは、フラット化に際して、ヘッドレスト6を取り外さなければならず、手間がかかるという問題もある。

【0004】本発明は、上記事情に鑑みてなされたもので、より一層なフラット化が可能でかつそのフラット化の操作が容易な車内シートの提供を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、請求項1に係る発明は、自動車に備えた前後の両シ

ートバックが、水平になるまで前側に倒れるように設けられかつそれらの背面が平面状に形成されると共に、一方のシートバックの背面には、平板状のバックボードが重ねられて他方のシートバック寄りの縁部に配したヒンジを介して回動可能に備えられており、前後のシートバックを水平に倒した状態でバックボードを約180度反転させたときに、バックボードと前後のシートバックとが面一に連続するようにしたところに特徴を有する。

【0006】請求項2に係る発明は、請求項1記載の車内シートにおいて、他方のシートバックの背面のうちバックボードを備えた一方のシートバック側の縁部に段差部を設け、この段差部に約180度反転させたバックボードの先端が係止するようにしたところに特徴を有する。

【0007】請求項3に係る発明は、請求項1又は請求項2記載の車内シートにおいて、約180度反転させたバックボードが、後側のシートバックに備えたヘッドレストの背面に当接して支持されるようにしたところに特徴を有する。

【0008】

【発明の作用及び効果】請求項1の発明では、車内シートをフラット化するには、まず、前後の両シートバックを水平になるまで前側に倒す。そして、一方のシートバックの背面に備えたバックボードをヒンジを中心に回動させて約180度反転させると、前後のシートバック間にバックボードが差し渡される。この状態となると、シートの座面が隠されかつシートバックの平坦な背面と平板状のバックボードとが連続してより一層なフラット化が図られる。

【0009】請求項2に係る発明は、バックボードの先端が他方のシートバックの段差部に係合して支持され、バックボードの支持強度が高くなる。

【0010】請求項3に係る発明は、ヘッドレストを外さずにバックボードを約180度反転できるから操作性がよく、しかもそのヘッドレストでバックボードを支持しているからバックボードの支持強度が高くなる。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図1～図4に基づいて説明する。本実施形態の車内シートは、図1に示すように、前後に一对ずつのシートを備えている。

【0012】後側のシート10に設けたリヤシートバック11は、図2に示すように、強度を保つための金属製のフレーム12をパッド13に埋め込んで備えており、これがシートカバー30(図1参照)で覆われている。

【0013】フレーム12は、矩形枠状をなしたメインフレーム14の両側辺の間に複数の丸棒14Aを差し渡して例えば溶接付けした構造となっており、メインフレーム14の下端部には、両側方に向けて回動支軸15、15が張り出している。

【0014】メインフレーム14の各辺は、断面矩形のパイプ材(図3参照)で構成されており、メインフレーム14の下辺の中央には、パイプ材の一側壁の下側方を切除して上側を部分的に残してなるストライカ部16が形成されている。

【0015】メインフレーム14の上辺のうち背面側の両端には、図2に示すように蝶番状の回転ヒンジ17、17がその一端をボルトで固定されている。また、メインフレーム14の上辺のうちパッド13と対面する表面側の中間部分には、一対のスリーブ18、18が溶接付けされていて、ここに後述のヘッドレスト19に設けた一対の支柱19A、19Aを支えるため図示しないヘッドレストサポート部材が組み込まれる。

【0016】メインフレーム14の両側辺の上端寄りの対向面には、丸棒状の回転軸21が差し渡されており、そこにロール22が回転可能に取り付けられている。ロール22には、パーティションネット23の一端が取り付けられて巻回されており、そのパーティションネット23の他端には一対のフック24、24が備えられている。そして、ロール22は例えば図示しないスプリングで巻き取り方向に付勢されており、前記フック24を車内の天井面に設けた係止部25(図4(A)参照)に引っかけると適度なテンションでパーティションネット23が張られた状態になる。

【0017】パッド13の背面には、図2に示すように、フレーム12を収容可能な溝部26が形成されており、この溝部26にフレーム12が収容されて、リヤシートバック全体として平面状となり、シートカバー30(図1参照)で全体が覆われる。そして、図1に示すように、パッド13の両側部に形成した孔27からフレーム12の回転軸15が延出されると共に、シートカバー30に形成した開口31を介してパーティションネット23の一端が外部に引き出されている。また、前記回転ヒンジ17もシートカバー30から露出されており、その端部に後述のバックボード20が固定されている。さらに、ストライカ部16も露出されており、ここにバックボード20に設けたボードロック28(図3参照)に係合する。パッド13の上端面のうち座面寄りの位置には、図2に示すように前記スリーブ18に対応した貫通孔29、29が形成されており、この貫通孔29を介して図示しないヘッドサポート部材がスリーブ18へと差し込まれ、ヘッドレスト19のステイ19Aがリヤサポート部材を介してリヤシートバック11の座面側に配置される。

【0018】さて、バックボード20は前記したメインフレーム14と同じ大きさの矩形平板状をなした例えば強度が高い合成樹脂で形成され、リヤシートバック11の背面に重ね合わせた状態から前記ヒンジ17を中心として約180度反転にすることができる。バックボード20のうち前記ストライカ部16と対面する部分には、

ボードロック28が設けられている。このボードロック28は、図3に示すように、バックボード20の回転側の縁部に形成された切り込み部32の内側に回転可能に備えられ、スプリング(図示せず)によってストライカ部16の内側に入り込んで係合する状態(図3参照)に付勢されている。そして、その状態から回転させて係合を解除できる。また、バックボード20のうち両回転ヒンジ17、17の取り付け部の間には、なだらかな窪み部33が図3に示すようにシートバック11の上端面に開放するように開放口33Aが形成されており、この開放口33Aから前記パーティションネット23の先端が図3の上方に向かって引き出せるようになっている。

【0019】図1に示すように、前側シート40のフロントシートバック41は、やはり、水平になるまで前側に倒れるようになっており、その内部には図示しないフレームが内蔵されていて、フロントシートバック41の背面に荷重がかかっても大きく変形しないようになっている。また、フロントシートバック41の背面には、回転軸42側の端縁部に段差部43が備えられ、フロントシートバック41を水平にした状態で、この段差部43が上方を向いてここに前記バックボード20の先端が載置し、又、フロントシートバック41の下部へはまりこんだ状態となる。

【0020】次に、本実施形態の作用について説明する。通常、車内シートは図4(A)に示すようにリヤシートバック11が起立しかつパーティションネット23のフック24が天井面の係止部25に係止された状態となっている。

【0021】車内シートをフラット化するには、まず、パーティションネット23のフック24に係合部25から外す。すると、図示しないスプリングによってロール22が回転してパーティションネット23がリヤシートバック11の内部に収容される。次に、前後の両シートバック11、41を水平になるまで前側に倒す。そして、リヤシートバック11の背面に備えたバックボード20のボードロック28を回転させてストライカ部16との係合を解除し、そのバックボード20を回転ヒンジ17を中心に回転させて約180度反転させる。すると、バックボード20の先端がフロントシートバック41の段差部43に載置し、又、フロントシートバック41の下部へはまりこんだ状態となる共に、バックボード20の中間部分がリヤシートバック11のヘッドレスト19の背面19Bに当接して水平状態に支持される(図4(B)参照)。これにより、前後のシートバック11、41及びバックボード20によって連続したフラット面が形成される。

【0022】このように、本実施形態の車内シートによれば、シート10、40のうち凹凸形状をなす座面40A、10A(図1参照)が隠されると共にシートバック11、41の平坦な背面が上方を向くから、より一層な

フラット化が図られる。また、ヘッドレスト19を外さずにバックボード20をフラット化できるから操作性がよく、しかもそのヘッドレスト19でバックボード20を支持しているからバックボード20の支持強度が増す。その上、リヤシートバック11を前方に倒す際に、パーティションネット23を天井面から外すだけで済み、従来のようにリヤシートバック11からパーティションネット23を取り外す必要がないから作業性がよくかつパーティションネット23がリヤシートバック11に収容されて邪魔にならない。

【0023】＜他の実施形態＞本発明は、前記実施形態に限定されるものではなく、例えば、以下に説明するような実施形態も本発明の技術的範囲に含まれ、さらに、下記以外にも要旨を逸脱しない範囲内で種々変更して実施することができる。

(1) 前記実施形態では、リヤシートバック11にバックボード20を備えたものを例示したが、例えば、前記実施形態のフロントシートバック41の背面にバックボード20を備えて、その下端部が回転ヒンジ17で連結された構成とし、両シートバック11、41を水平に倒した状態で、バックボード20を反転させるとその先端がリヤシートバック11の先端に係止するようにしても

よい。

(2) 前記実施形態では、リヤシートバック11にパーティションネット23を備えたものを例示したが、パーティションネット23を備えないものであってもよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係る車内シートの斜視図

【図2】リヤシートバックの分解図斜視図

【図3】リヤシートバックの側断面図

【図4】(A) 通常の状態の車内シートを示す側面図

(B) それをフラット化した状態の側面図

【図5】(A) 従来の車内シートの通常の状態を示す側面図

(B) それをフラット化した状態の側面図

【符号の説明】

10…車内シート

11…リヤシートバック（シートバック）

17…回転ヒンジ

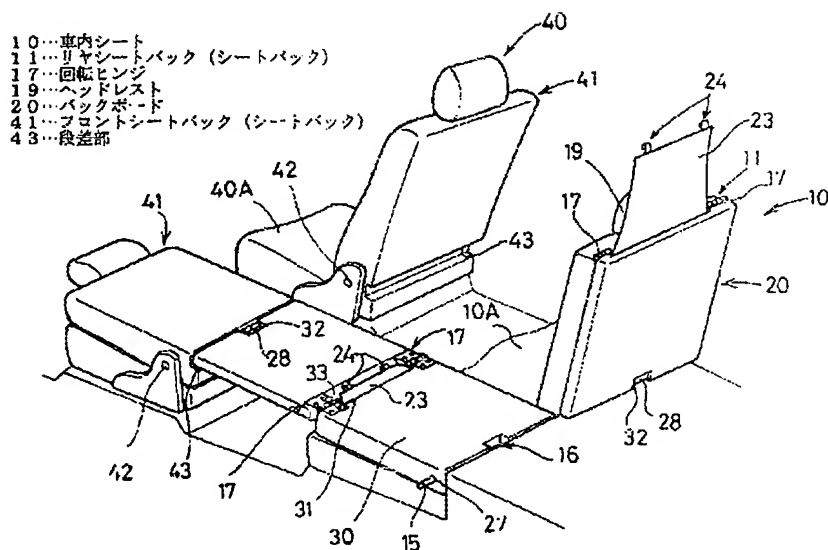
19…ヘッドレスト

20…バックボード

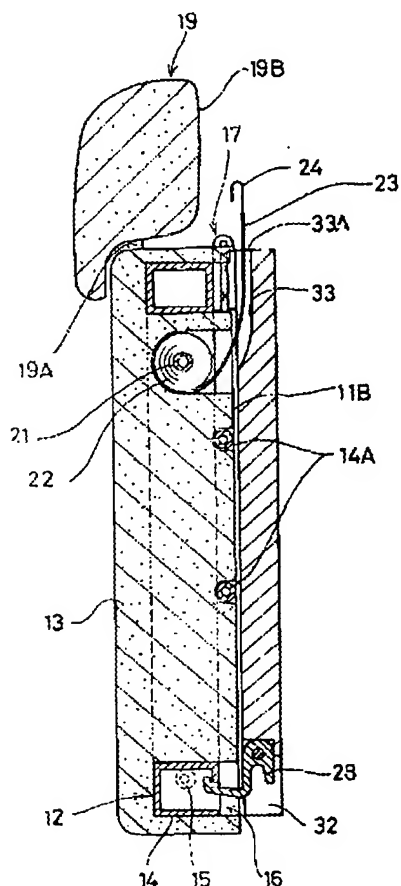
41…フロントシートバック（シートバック）

43…段差部

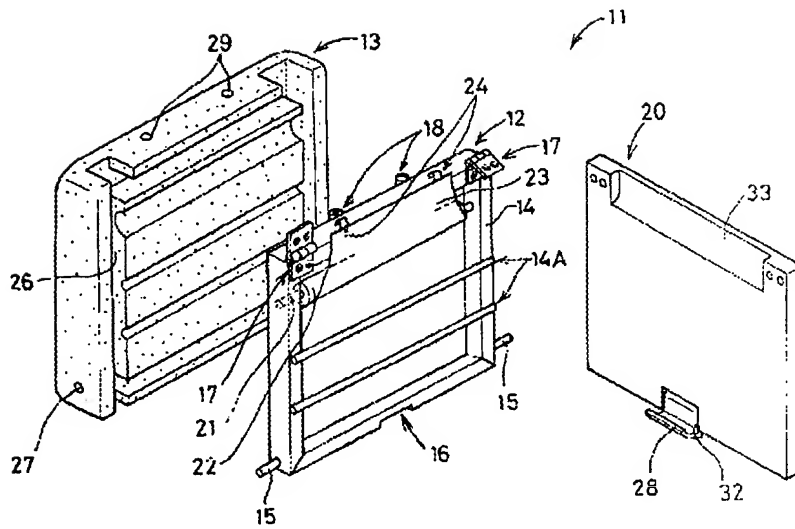
【図1】



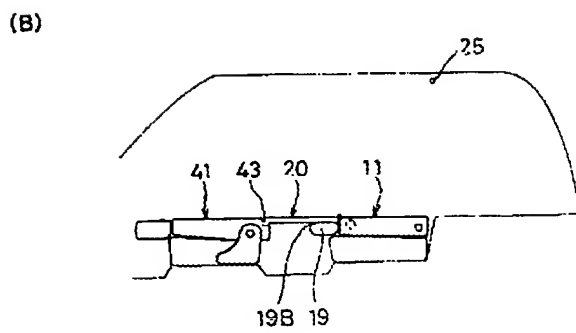
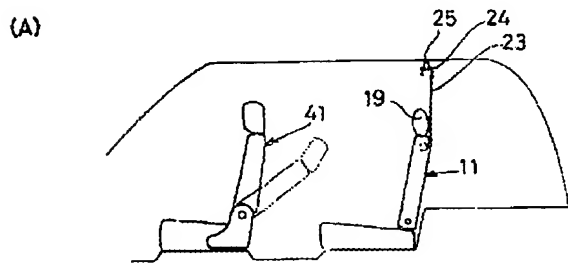
【図3】



【図2】



【図4】



【図5】

